

令和3年度 特別の教育課程の実施状況等について

三重県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
松阪市立飯高中学校	松阪市教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
松阪市立飯高中学校	https://www3.schoolweb.ne.jp/weblog/index.php?id=2420012&date=20220331

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
松阪市立飯高中学校	https://www3.schoolweb.ne.jp/weblog/index.php?id=2420012&date=20220331	https://www3.schoolweb.ne.jp/weblog/index.php?id=2420012&date=20220331

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ・計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

特別の教育課程の実施のため、これまで「職場体験学習」や地域の社会人講師を招いた「職業にアタック」、本校卒業生を特別講師として招いた「高校生活を知ろう」に取り組んできた。また、飯南高等学校での「飯南高校学校開放チャレンジデー」「生徒交流会」「いいなんゼミ発表会」への参加を通して、飯南高等学校についての理解を深める等の取組を行ってきた。さらに、連携中学校と飯南高等学校の応援団が中心となり「道の駅コラボプロジェクト」、「地域貢献プロジェクト」として各地域の行事に参加してきた。

しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、様々な取組が中止を余儀なくされた。そのような状況下において、「いいなんゼミ発表会」ではWEB参加にて、「連携入試対策講座」「スタートアップ講座」「学校祭での展示発表」では飯南高等学校の協力のもと感染防止対策を講じた上で、取組を進めることができた。また、職場体験学習を実施し、飯南高等学校での「地元企業との交流会」に参加した。さらに、キャリア教育講演会を実施し、起業家の方から直接話を聞くことができた。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ・実施している
- ・実施していない

<特記事項>

特別の教育課程の実施状況等を学年通信や学校だよりとして、保護者に配付している。さらに、ホームページにも取組の様子を記載している。また、「中高一貫教育ニュース」を年に2回発行し、飯南・飯高地域の全戸に配付することによって、地域住民への情報提供も行っている。

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本校の教育目標である「ふるさとを愛し、深く考え、共に伸びる生徒の育成」をめざして、「確かな学力の定着と向上」、「地域学習の充実」、「豊かな人間関係の構築」「未来を切り拓く力を養う」を教育重点目標として取り組んでいる。特別の教育課程とともに「総合的な学習の時間」における縦割り班による課題別探求活動に取り組むことにより、学校教育目標の達成をめざしている。

また、キャリア教育に関する学校や生活についてのアンケートの回答結果から、「自分には良いところがあると思いますか」という設問に対する肯定的な回答が60%、「将来の夢や目標を持っていますか」という設問に対する肯定的な回答が75%となるなど、コロナ禍でも生徒の肯定的な回答は多かった。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

特別の教育課程では、キャリア教育を軸として取り組んでいる。本校では、ICT機器を活用した教育活動を進めており、「人間と社会」の授業や活動の中で、ICT機器を使った調べ学習やまとめて発表する活動を多く取り入れ、「身につけさせたい資質・能力の育成」と「コミュニケーション能力の向上」を目標にした授業づくりを目指してきた。また、小中高の12年間における教育の連携・コミュニケーション力を培う教育の連携をめざしている。しかしながら、全校生徒43名という小規模校であり、生徒の関係も固定化する傾向がある。そのような状況の中、自分の思いや考えを人に伝えることを苦手と考える生徒が多いという実態がある。

5. 課題の改善のための取組の方向性

各学年の目標と内容を系統的に計画し「キャリアプランニング能力」を育てていく。さらに発表でのタブレットを使ったプレゼンテーションを行うことで、コミュニケーション力の向上につなげていく必要があると考える。そのためには、今後たくさんの成功体験を積み重ねると共に、難しいことでも失敗を恐れずに挑戦する態度を育てていかなければならない。